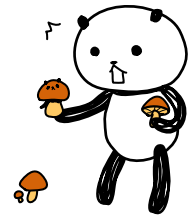




# SEASON 秋



テーマ：奇妙

ここ数年の間に、ハロウィンがすっかり定着しましたね。

「トリック・オア・トリート！」——お菓子をくれなきゃいたずらするぞ!! 元々は悪霊たちのセリフが、今では子供たちが仮装してお菓子を貰うための決めゼリフに。海外ではお菓子が貰えなかったとき、結構過激ないたずらを残していくそうですよ。

しかし悪霊をもてなさないと一年間いたずら三昧なんて、あんまりじゃないですか？

というわけで今回のテーマは、ハロウィンにちなんで「奇妙」なおはなし。

怖いものは、悪霊だけじゃないのかも……。

それは、かつて部屋だった——。

☆ 『ゴルディアスの結び目』 小松左京/著 角川書店

今は「球」の形を残すもの。ある精神病院で起きた惨劇。

ヘドロのように蔓延する人間の欲望。精神分析医伊藤と入院する少女マリアの、衝撃の結末。

日本SF界の巨匠・小松左京によって、人間の根源的な悪が描かれます。

奥様。一生の御願いでございます。

☆ 『人間椅子』 江戸川乱歩/著 春陽堂書店

美しい女流作家のもとに届いた一通の手紙。

そこに記された衝撃的な告白を、あなたは受け入れられますか？

どうか嘘であってくれと願わんばかりの恐怖が彼女を襲う。

さあ、あなたも普通の椅子に腰かけて、この手紙をご拝読くださいませ。

その場合は、図書館警察の警官を派遣しないとイケませんね。

☆ 『図書館警察』 スティーブン・キング/著 白石 朗/訳 文芸春秋

ある事情で図書館を利用することになったサム。そこにいたのは、薄暗い図書館と気味の悪い司書ローツだった。本を期限までに返さなければ図書館警察がやってくる。しかしサムは借りた本を失くしてしまい……。

こんな夢を見た。

☆ 『夢十夜』 夏目漱石/著 新潮文庫

十篇の夢を描いた夏目漱石の短編集。

見透かすような盲目の子供。侍と鋭い刃。向かう場所の知れない船……。

夢を見るなら、あなたはどの夢がいいですか？

夜がだんだんと長くなっていく季節。  
眠れないときは、そっと枕元に本を置いてみましょう。  
物語が夢に現れるか、それとも朝まで読み耽るか。

素敵な秋の夜長をお過ごしください。

